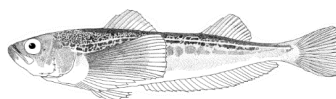


# 23.ハタハタ

## 日本海海域

主な漁業と漁期  
 えびこぎ網：9～11月  
 沖合底びき網：10～11月  
 刺し網：11～12月



### 生態

#### ◆分布・回遊

索餌期には天売舟状海盆周辺の水深150～300m前後の砂泥域に広く分布し、9～10月の産卵期前には雄冬岬沖の水深200m前後の海域に密集し、11月以降、産卵のため厚田沿岸に接岸します。

#### ◆産卵期・産卵場

◎産卵期：11～12月です。

◎産卵場：厚田沿岸の水深2m前後の海域ですが、産卵親魚量の多い年には積丹半島周辺と増毛沿岸域にも産卵場が形成されます。

#### ◆成長・成熟

(11月時点)

	体長(mm)		体重(g)	
	オス	メス	オス	メス
1歳	139	152	36	48
2歳	157	179	53	78
3歳	175	201	70	102
4歳	186	215	83	129

\*) 2017～2021年の平均値  
 \*) 加齢の基準日：1月1日

◎成熟年齢

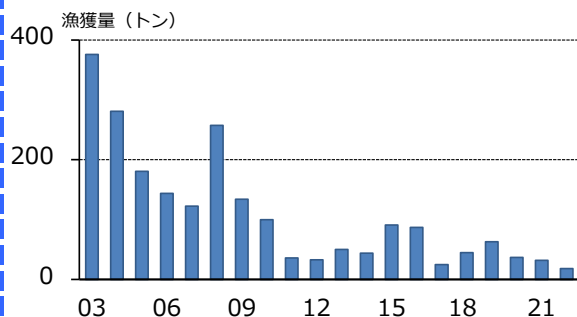
- ・オス：体長11cmから成熟する個体が見られ、多くの個体が1歳で成熟します。
- ・メス：体長12cmから成熟する個体が見られ、1歳で成熟しますが、成熟率は年によって異なります。

### 資源評価

[評価年] 1月～12月

[資源水準の指標] 1歳以上のメスの資源重量

2022年度の漁獲量は18トンで、前年と比べて減少しました。資源水準は2010年度前後に減少して以降は概ね低水準の状態が続いており、2022年度も低水準と判断されました。2023年度の資源量は2歳魚でやや増加、1歳魚と3歳魚で減少か同程度と見込まれることから、翌年にかけての資源動向は横ばいと判断されました。今後、比較的高豊度な年級が発生した際にも低い漁獲強度を維持し、再生産環境の好転に備えていくことが重要です。



2022年度  
の水準



低水準

2023年度  
の動向



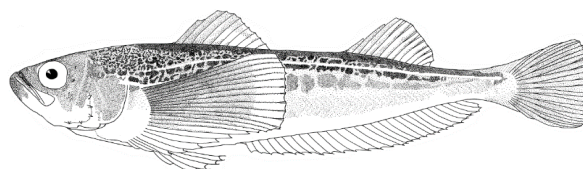
横ばい

### 資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

○資源管理計画

1. 沿岸漁業
  - ・刺し網使用反数の制限
  - ・産卵保護区域の設定、ブリコの海中還元
2. 沖合漁業
  - ・雄冬岬沖合の一部海域・期間での操業自粛、秋漁の漁獲量上限目安の設定
3. えびこぎ漁業
  - ・雄冬岬沖合の一部海域・期間での操業自粛、秋漁の漁獲量上限目安の設定、ハタハタ専獲の禁止



☆沿岸・沖合の連携した取り組みを継続し、高豊度な年級が発生しても、現状の低い漁獲強度を維持し、親魚量の維持・増大を図ることが重要です。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係  
 北海道立総合研究機構 中央水産試験場資源管理部

電話 011-204-5477  
 電話 0135-23-8707